

ATTENTION

株はずっと持っているほうがよほど良い結果になる！

年率利回り10%、税率20%		0年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	税引利回り
A	1000000	1080000	1166400	1259712	1360489	1469328	1586874	1713824	1850930	1999005	2158925		8%
B	1000000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2274994	8.6%

A:毎年1回売り買いするケース
B:10年持ち続け、10年後に売るケース

このコラムの内容は、2021年10月に掲載したものと同じですが、大変重要なことなので、再掲載しました。この表は、10年間同じ利回りでも、投資の仕方によって、その成果がどれだけ違うかを見たものです。前提は、100万円投資して、毎年の利回り10%で10年運用するというケース。Aは毎年10%の利回りで利益を確定してまた買戻し、10年投資を続けるケース。Bは同じ利回りでも10年持ち続けて、10年後に売るケース。10年後の額は同じかという、違います。116,069円の差になります。投資元本から見れば11.6%の違い。税引き後利回りを見れば、年率0.6%の違いになります。ずっと何もしないで持っていたほうが、毎年売って買って、大変な手間がかかるより、利回りは高いのです。これが課税の繰り延べ効果といわれるものです。

さらにここには、売買手数料が入っていません。毎年売って買っての手数料で年に1%(0.5%×2)の手数料が上乗せされるとすると、毎年売買する場合の利回りは8%−1%で7%、一方でずっと持っていた場合の売買手数料は10年で1回の売り買いの1%のみ、1年で0.1%しか引かれなないので8.5%。7%と8.5%で年率1.5%の差になります。手数料も考慮すると毎年売買した場合には10年後元本は1,967,115円、ずっと持っていると2,254,739円。その差は287,624円と大きな開きとなります！

さらに10年の間にはコロナショックやリーマンショックのように大きく下げることがあり、そういう時には心配になって安値で売り、上がっている時は早く利益を確保したりして、なかなか毎年、平均10%の利回りは取れません。余計な心労も加わり、まったく割の合わない投資となってしまいます。実はこのようなケースの方が、はるかに多いのです。しっかりとよい銘柄、よいポートフォリオで足元を固め、じっくり持ち続けているほうが、パフォーマンスははるかによく、日ごろの心持ちもよほど良い結果になるでしょう。

COLUMN

お酒を1週間にどの位飲んでも大丈夫？

お酒が好きな人にとって大変参考になる記事がウォール・ストリート・ジャーナルに載っていましたので紹介しましょう。

専門家によれば、少しの飲酒でもやはり健康によくはないとのこと。それでも飲みたい場合、どうしたらいいか。一日一杯(ビール340cc、ワイン140cc)であれば、癌になるリスクは低い。それを超えると、急に高くなるとのこと。飲酒は、およそ6種の癌、心臓や肝臓などの病気を引き起こす。一番いいのは禁酒。できる人はいるが、なかなか難しい。米国の基準では、男性は1日2杯、女性は1杯までがよいとされるが、男性も1杯にするか検討中とのこと。カナダの基準では、1週に2杯でリスクは少なく、3~6杯で中程度、7杯~は大幅に高くなると、ややきびしい。

癌を引き起こす原因として、女性は、飲酒がたばこ、肥満の次に、男性は、たばこ、紫外線、肥満の次に来るとのこと。飲酒は、身体自体にも悪く、消化の過程で、DNAやタンパク質を破壊する。最も危険なのは、飲み会で酒盛りすることだ。ひとつの集まりで4,5杯飲む。これをすると、他に糖尿病も誘発する。またウイスキーなど強い酒のストレート飲みはよくない。飲酒は、身体づくりから、特に女性にはよくなく、乳がんを誘発することが多い。

アルコールを飲み過ぎないようにすること：ノンアルコールで代替、早く飲まずに少しずつ飲む、空腹に飲まないで、食べてから飲む。いかがですか。私にとっても大変参考になります。そういう私は毎日飲みたいのですが、ぐっとこらえて、一日おきにしています。

MARKET

	(7月末)	(6月末比)
日経平均	39,101.82円	-481.26円 (-1.22%)
NYダウ	40,842.79ドル	+1,723.93ドル (+4.41%)
米ドル	150.00円	-10.95円 (-6.80%)

私の書棚より

私は「はじめの百ポンドさえ溜めてしまえば、次の百ポンドはひとりでに溜まる」ということわざの真実であることを実際に経験した。金というものは本来繁殖力の強いものである。-フランクリン自伝

役人に国をつぶされる！

先日7月21日、日経の社説に「官製ファンドの根深い陥穽(かんせい)」という記事が出ていました。「やはりこうなったか」という、なんとも言えない腹ただしさを感じました。この官製ファンド(官民ファンドを名乗るが、実態は官製)は2013年に、各省庁が、我も我もと始まったのですが、当初から、その行く末は目に見えていました。ニュースレターで紹介した「官製ファンド」の経過のリンクを、このコラムの終わりに載せていますので、ぜひご覧ください。時系列で追えますので、その経過がよくわかります。

この社説や私の過去のニュースレターを読むと、役人が一度作ったものは、なかなかなくなり、赤字の垂れ流しの運命をたどるのが、手に取るようにわかります。国土交通省系の投資ファンド「海外交通・都市開発支援機構」が2024年4月期に約800億円の巨額の損失を計上。2013年から4兆円もつぎ込んで、次から次に作った15の官製ファンドのうち、なんと9つが今年3月末時点で累損状態に陥っているというのです。

そんなことは最初から分かっていたこと。いまとなつては、役人(元役人)が得意な言い訳のオンパレードです。「専門家と相談して、適切に対応してきた」「想定外が発生した」。少しは「恥を知れ」と言いたいです！

こういった状態になっても、管轄省庁の役人に当事者意識はありません。過去の先輩がやったことというような感覚でしょう。そもそも官製ファンドは「他がやるからうちも」という横並び意識、さらには、第2の職場(天下り先)づくりのためにつくったものなのです。

そして数兆円も注ぎ込んで赤字の垂れ流しでも、なんとも思わずに、ポストにふんぞり返っているのが実情です。官製ファンドができてから、早くも12年。これから、これらのファンドの敗戦処理に10年以上かかるとすれば、20年以上の無駄な時間を費やすことになります。そのあいだも、ここにいる元役人は給料をもらい続ける。まさに、無駄飯食いの銭失いです！

役人のやっていることと言えば、こういうことの繰り返しです。私は、役人が主導してやるプロジェクトには、ろくなものはない、そしてそう見ることで、あてにすることなく、時間を無駄にしないで済むと見ています。

ここに来て、規制緩和という言葉がとんと聞こえなくなっています。これこそ日本にとって非常に大事なのに、横に置かれ、空恐ろしい気がします。規制緩和をすれば、国の関与が少なくなり、権限が縮小してしまうと役人は考えているのでしょう。まさにこういう状態が延々と続いているから、日本の国力は衰退しているのです。

[No.53 2013年9月号「国主導の相次ぐ官民ファンドの行く末は見えている」](#)

[No.55 2013年11月号「官が民に関与しすぎる大きな弊害に目を向けよう」](#)

[No.117 2019年1月号「やはり官民ファンドはこうなった！」](#)

いずれも2ページ目

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に勧めるのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386

携帯：070-5567-3311

電子メール：info@bfsc.jp